

内容市長の

ゆるやかコラム

「未来への挑戦」

—安心と希望をつなぐまちへ—



温かな春、入学、進学、就職など新たなステージに進まれた皆様、誠におめでとございます。

さて、高市総理大臣は自民党政策パンフレットにおいて「未来は与えられるものではなく、自らの手で切り拓くもの」今の日本に、必要な言葉です。「挑戦しない国」に、「未来」はありません。「守るだけの政治」に、希望は生まれません。」と述べています。施政方針演説では、誰もが安心して豊かに暮らせる経済力を高める方針を打ち出され、大変心強く感じております。

長井市は大変厳しい財政状況を何とか立て直し、国の制度等を活用しながら、遅れていた公共施設の整備を進めてまいりました。人口減少への対応としてコミセンを中心とした協働のまちづくりを進め、自分たちの地域は自分たちの力で元気にしていこうという地域の皆様の協力のもと、持続可能なまちの体制ができています。

一方今後の課題としては、高規格道路と中心市街地の整備が挙げられます。本市は高速交通網に恵まれておりません。国道113号(新潟山形南部連絡道路)梨郷道路の開通に合わせ、

長井南産業団地を造成しておりますが、安定的な輸送環境確保と市民の利便性向上のためにも、市内中心部を走る高速交通網は必要不可欠です。去る2月、今泉地区から山形市を結ぶ新たな高規格道路の実現に向け、「国道348号(長井地区)整備促進期成同盟会」を立ち上げました。今後は県の計画への盛り込みを目指し要望を進めてまいります。

中心市街地はこの30年間で大きく衰退してしまいました。若い人たちが長井に残る、あるいは戻ってきてもらうためには、最低限必要な都市機能が必要であり、買い物や飲食のほか「あそび」機能の充実が重要と考えます。民間の皆様と共に、都市機能を有した中心市街地の活性化を目指し、駅前周辺地区の整備を進めてまいります。そして、市民のみならず、西置賜全域の皆様にとって便利な生活ができるまちを目指してまいります。

今後人口減少が進むことが予想されますが、自分たちはもちろん、子どもや孫の世代まで「長井に住んで良かった」と思えるような未来をとものに切り拓いてまいります。